

1P31

沖縄県5市における3歳児の早寝である保護者の児の睡眠に関する自由記述の分析

儀間 継子¹、上原 真名美¹、辻野 久美子²、遠藤 由美子¹、玉城 陽子¹¹琉球大学医学部保健学科²元琉球大学医学部保健学科

【はじめに】

沖縄県は 児が望ましい生活習慣の獲得をできるように取り組みを推進している。当教室でも2011年から6年間3歳児健診の対象児の保護者に対し睡眠に関する調査を行っている。

【目的】

3歳児の保護者の児の睡眠に関する気になることおよび知りたいことを自由記述の回答の質的分析によって明らかにすることを目的とした。

【方法】

調査対象は協力が得られた沖縄県5市の3歳児健康診査の対象児1,975人とその保護者であった。調査期間は平成23年から平成27年で、調査方法は無記名自記式質問紙調査、回収数は1,275（回収率64.5%）であった。調査内容は3歳児の基本属性と生活習慣、保護者の基本属性、保護者の児の睡眠に関する気になることおよび知りたいこと（自由記述）であった。分析方法は①自由記述された内容を可能な限り記述された言葉を用いて内容ごとにまとめ、共通点、相違点を比較しながら分類した。②分類された内容に共通する名前を付けてサブカテゴリとした。③サブカテゴリの分類を行いカテゴリとした。本研究は琉球大学疫学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

【結果】

就寝タイプを早寝群692人（22時前に就寝する者）、遅寝群418人（22時以降に就寝する者）、混合群153人（就寝時刻が不規則な者）の3つに分類した。自由記述があったのは206人（16.3%）で早寝群85人、遅寝群88人、混合群33人であり、分析対象は児が早寝群である保護者85人である。自由記述の内容は33のサブカテゴリ（【】で示す）、7のカテゴリに分類された。早寝群の保護者は、【就寝中の児の行動】を気にしていた。また【児がなかなか寝ないという現状】や【家庭や家族の都合で児の睡眠を優先できない現状】があった。これらの現状の中で保護者は【現在の児の睡眠状況に対する苦悩】を抱えていた。

【考察】

分析結果から、より良い児の睡眠習慣の確立のためには【児の睡眠状況を改善するための知識】、【睡眠と健康の関連についての知識】についての知識を啓発することが必要であると考えられる。

1P32

沖縄県A市における乳幼児を育てる世帯の経済状態と子育てにおいて気になることとの関連：自由記述の分析

神谷 義人^{1,2}、喜屋武 享^{3,6}、金城 昇⁴、仲宗根 正⁵、高倉 実⁶¹名桜大学人間健康学部スポーツ健康学科²琉球大学大学院保健学研究科³沖縄女子短期大学⁴琉球大学健康づくり支援プロジェクトLib⁵沖縄県南部保健所⁶琉球大学医学部保健学科疫学・健康教育学分野

【I. 緒言】

沖縄県A市ではこども関連施策等に活用することを目的として、2018年度独自調査を実施した。本研究は、乳幼児を育てる世帯における経済状態と子育てにおいて気になることとの関連について、自由記述の質的データを分析することにより、その特徴を探索した。

【II. 方法】

本データはA市「こどもの生活等に関する調査」の結果を二次的に用いた。対象はA市に在住する0歳から就学前児童の保護者とし、住民基本台帳より3,580人を無作為抽出した。調査は、郵送法による無記名自記式質問紙調査（回収率44.6%）にて、2018年9月～11月に実施した。本検討では社会人口統計学的データのうち、世帯の人数および世帯収入を分析に用いた。自由記述について、本調査の最後の設問に「あなたが子育てにおいて気になる事があれば、自由にお書きください」と教示し、回答を求めた。分析方法について、世帯の経済状態の指標である所得階層は、等価可処分所得を算出し、困窮度が低い順に「一般層（等価可処分所得183万円以上）／低所得層II（122～183万円未満）／低所得層I（122万円未満）」と3つに区分した。自由記述はKH Coderを用いて、共起ネットワーク分析と対応分析を行った。本研究は琉球大学人を対象とする医学系研究倫理審査委員会の承認を得た。

【III. 結果】

回答の得られた1,593人のうち、分析に使用した項目に欠損のあるデータを除いた1,482人を分析対象とした。自由記述は583人（36.6%）から回答があり、2,257文について共起ネットワークで分析した。その結果、「A市の子育て（全般）」「保育園」「保育料」「待機児童問題」「医療費等の無料化」「子どもを預ける大変さ」に関する記述が認められた。対応分析の結果、一般層では「保育園」「待機児童」、低所得層IIでは「子どもを預ける大変さ」「教育に対する不安」、低所得層Iでは「生活」「収入」など、所得階層によって記述内容に特徴がみられた。

【IV. 考察】

「子育てにおいて気になる事」について、世帯の経済状態に応じて記述内容にそれぞれ特徴が認められた。一般層では待機児童問題やそれに関連する保育園の入園に不安があるのに対し、支援がより必要な低所得層では収入、仕事、生活に関することや子どもの教育に対する不安が示された。